



尼崎城整備に係る展示計画



尼崎市

目次

はじめに	1
第1章 基本理念	2
1 基本コンセプト	
2 施設整備の目的	
3 機能	
4 立地特性	
第2章 施設計画	4
1 建設場所	
2 施設構成・規模	
3 配置計画	
4 建物の考え方	
5 外観	
第3章 展示計画	7
1 展示コンセプト	
2 展示テーマおよび展示ストーリー	
3 各階の展示構成(イメージ)	
第4章 事業活動計画	17
1 基本的な考え方	
2 事業計画	

第5章 管理運営計画 _____ 18

- 1 基本的な考え方
- 2 運営形態
- 3 管理運営に関わる部門
- 4 開館形態
- 5 収支計画の検討

第6章 歴史文化ゾーン周辺におけるツーリズム計画の検討 ____ 24

- 1 基本理念
- 2 整備の方向性・コンセプト
- 3 整備の機能
- 4 寺町や商店街など周辺エリアとの連携方針の検討

第7章 事業スケジュール _____ 26

第8章 関連調査 _____ 27

- 1 同種施設の調査(復元天守の活用・展示)
- 2 周辺施設の調査

はじめに

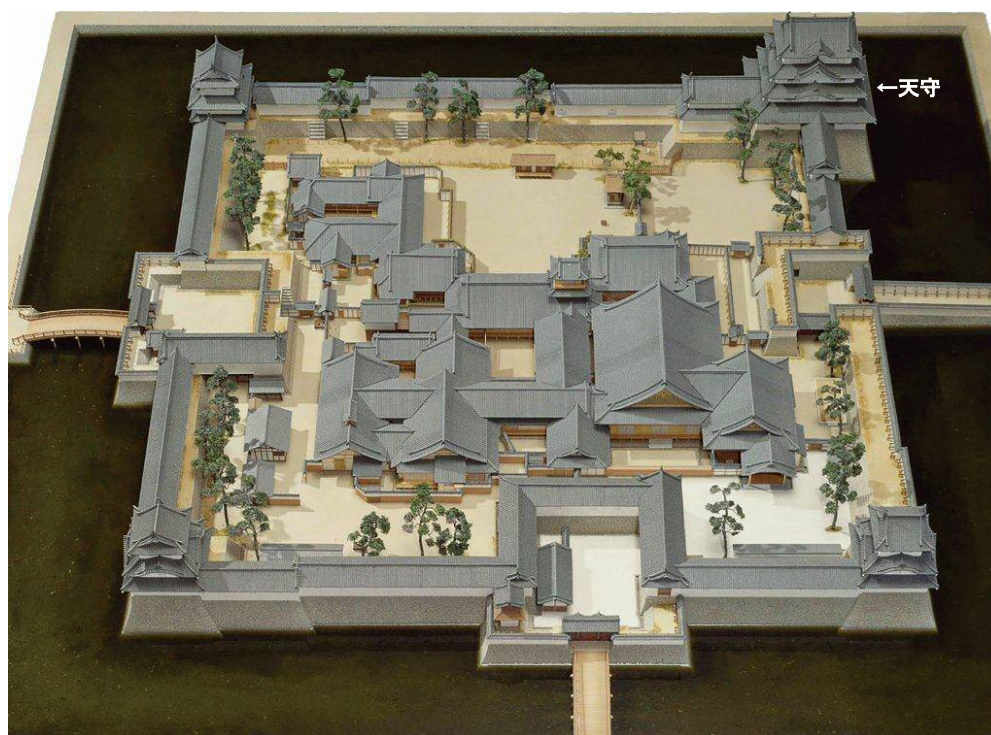
尼崎城は、元和 3 年(1617)に5万石の大名として赴任してきた戸田氏鉄(とだ うじかね)によって、現在の北城内・南城内の約 300 メートル四方、三重の堀をもち、甲子園球場の約 3.5 倍に相当する敷地に築かれた。しかし、明治 6 年(1873)に廃城が決まった後、城の建物は売却されたり、取り壊されたり、堀も次第に埋められていったために、今では全くその姿を見ることはできなくなった。なお、近年の発掘調査により遺構や遺物が発見されている。

本市では、阪神電鉄尼崎駅の南側の寺町や尼崎城跡を中心とした地域を歴史・文化ゾーンと位置づけ、地域資産を生かした歴史、文化の視点からの魅力づくりを進めていくこととしていた。しかし、本市財政状況の悪化等から周辺整備を含めた取組が十分に進んでいない状況にあった。そうしたなか、平成 28 年に市制 100 周年という区切りを迎えることを鑑み、城内地区を中心に「都心と歴史文化ゾーンが調和した交流と学びの拠点の創生」を目指した整備に取り組むことを検討してきた。

こうしたなか、「尼崎城を建築し、子どもからお年寄りまで歴史を学べ、楽しめる場所を提供したい、末永く市民に愛されるよう整備したい」という意向が旧ミドリ電化の創業者、安保 詮(あぼ あきら)氏から寄せられ、尼崎市長と平成 27 年 11 月 25 日付けで「尼崎城の建築および寄附に関する協定」を締結し、平成 28 年 12 月から関連工事が始まっている。

再建する尼崎城天守(以下、「尼崎城天守」という)は、本市の歴史的な地域のシンボルとしての活用のみならず、城内地区や寺町、さらには商店街などもめぐっていただくための観光資源としても期待できるものであり、また、寄附いただいた後は本市が管理・運営を行っていくことも踏まえ、その具体化に向け、専門家や設計者と本市との間で協議の機会を設け、これまで検討を重ねてきた。

本計画は、こうしたことを踏まえ、尼崎城天守の基本的な方針や施設内容、運営および事業計画等についての方向性を明らかにしようとするものである。



尼崎城本丸復元模型(尼崎市教育委員会)

第 1 章 基本理念

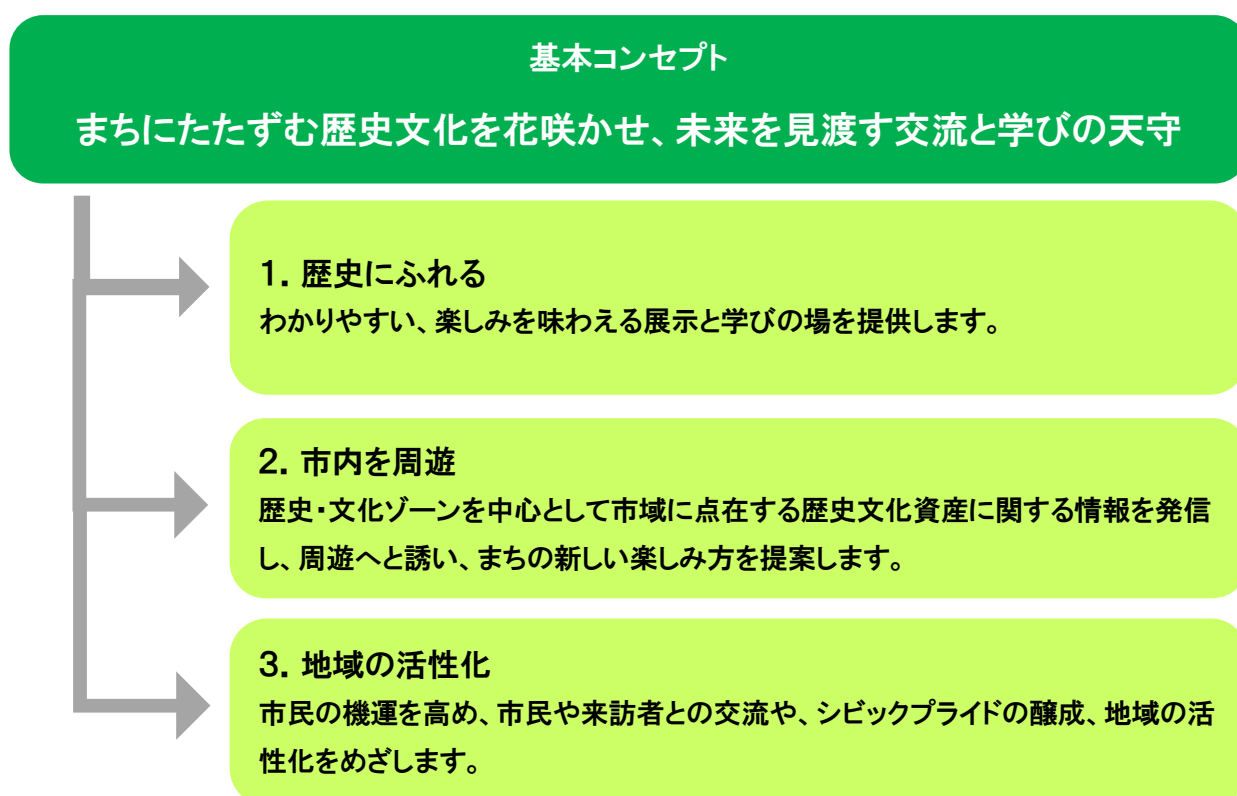
第1章 基本理念

尼崎城天守を拠点に、尼崎の歴史文化資産と連携して、市民はもとより来訪者にも魅力あふれるまち・尼崎のイメージを力強く定着させ、シビックプライドの醸成、地域の活性化をめざす。

1 基本コンセプト

まちにたたずむ歴史文化を花咲かせ、未来を見渡す交流と学びの天守

2 施設整備の目的



3 機能

(1) 尼崎の歴史文化の展示機能

尼崎城や城下町などの情報を提供し、大人から子どもまでが楽しみながら尼崎城の姿などを学ぶことのできるわかりやすい展示を行う。

(2) 体験学習機能

尼崎の歴史文化の多様な魅力を体験しながら理解し、尼崎城や尼崎のまちへの親しみを得るなどの展示を行う。

(3) 文化観光ガイド機能・物販機能

尼崎の情報発信機能や来訪者の目的や嗜好に合ったルートを調べる観光周遊案内機能、ショップ機能等、周遊を喚起する文化観光ガイド機能を行う。

(4) 交流機能

尼崎ゆかりの人物の紹介や、企画展示などを展開するほか、イベントでの使用にも柔軟に対応する。また、市民が気軽に集い交流することのできる場を提供する。(各種講座、ワークショップ、イベント等の開催 等)

4 立地特性

尼崎城天守は阪神電鉄尼崎駅の南側に広がる「歴史文化ゾーン」のほぼ中央に位置する城内地区内に建設される。

城内地区は、尼崎市の都市形成の基礎となった特別な地区であり、尼崎市の魅力づくり、良好なイメージ形成に果たすべき役割が大きい地区である。

地区内には旧尼崎高等女学校(現文化財収蔵庫)や旧尼崎警察署などの近代建築、中央図書館、尼崎城址公園などがある。これらを有効に活用するとともに、歴史文化ゾーンの中央に位置する施設として、周辺にある歴史文化資産と連携したまちづくりを進めていく。

第 2 章 施設計画

第2章 施設計画

1 建設場所

尼崎城天守は近世にあった場所から北西約 300 メートルに位置する尼崎城址公園内。
 尼崎市北城内 27 番地 他。

■建設場所

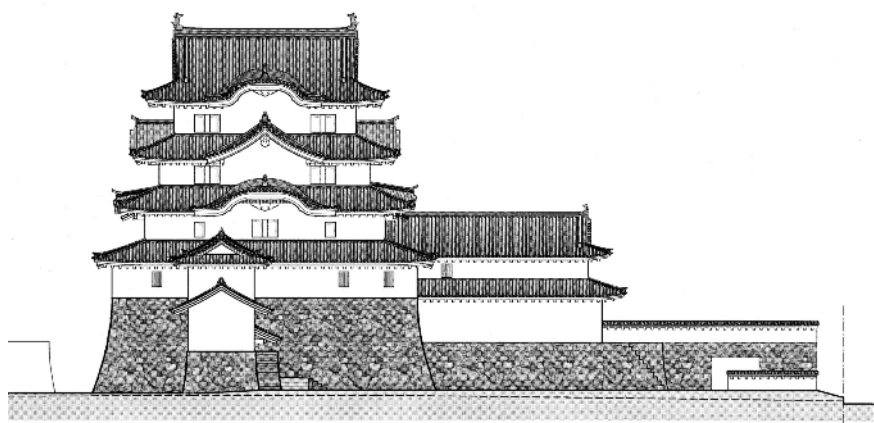


近世尼崎城天守

2 施設構成・規模

4重天守および2重付櫓、鉄筋コンクリート造・地上5階(エレベーター1基)

敷地面積	13,479.1 m ²
建築面積	641.96 m ²
延床面積	1,408.99 m ²
棟高	24.399m



南立面図イメージ

3 配置計画

■配置図(本図は尼崎城址公園整備計画図 平成29年3月現在)



配置図はイメージであり、変更がある

4 建物の考え方

- (1) 当時と立地場所が異なること、建築に係る予算や今後の維持管理費抑制の観点で踏まえ、現代工法(鉄筋コンクリート造)を採用する。
- (2) 近世尼崎城の資料を参考に設計し、内外部の素材についてはできる限り伝統的な素材、工法を採用する。
- (3) 敷地条件から、当時の尼崎城の天守(北東隅櫓)を含めた1/4程度の範囲について再建することとし、城郭としての構えを維持し天守への動線を本丸外から本丸内へと連続的に確保するため本丸の配置を東西反転し、天守から東方向と南方向へ展開する構えをとる。
- (4) 内部にはエレベーターを配置し、気軽に、また安全に来城できるよう整備する。

5 外観



完成イメージ図



庄下川からのながめ

第3章 展示計画

第3章 展示計画

1 展示コンセプト

尼崎の歴史文化を花咲かせる感動と楽しさあふれるわかりやすい展示。

- ・ すべての人々が楽しみながら展示観覧できる「体験型の展示」
- ・ 時代のイメージへ入り込むことで興味が喚起される「没入感の展示」
- ・ 当時の生活を疑似体験するなど、これまであまり知らなかった歴史文化にふれる「発見の展示」

2 展示テーマおよび展示ストーリー

(1) 展示ゾーニング(フロア構成)

来訪者にはわかりやすく、施設管理者には管理しやすい機能とするため、有料、無料ゾーンを明確にし、シンプルな動線計画となるように配慮する。

また、市民が気軽に集うことができる「交流」のフロアを設け、様々なイベント等にも柔軟に対応できるようにする。

■5階(展示面積:約 70 m²)

わがまち尼崎展望室

- ・わがまち尼崎展望スタンド



■4階(展示面積:約 100 m²)

ひと咲きあまがさきギャラリー

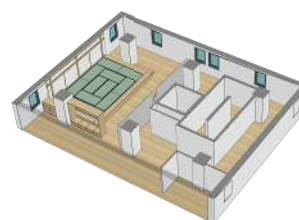
- ・荻原一青ワールド
- ・尼崎ゆかりの人びと
- ・企画展・特別展



■3階(展示面積:約 160 m²)

尼崎体験イベントスペース

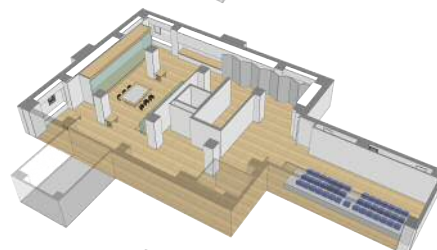
- ・タタミ・ステージ
- ・なりきり体験コーナー



■2階(展示面積:天守約 320 m²・付櫓約 70 m²)

尼崎城体験ゾーン

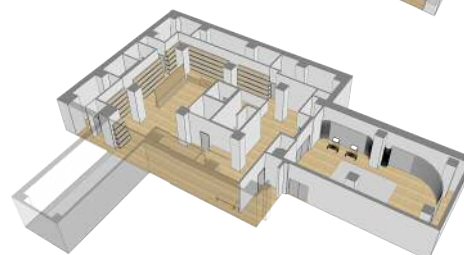
- ・近世尼崎タイムスリップ体験
- ・近世尼崎城下体験コーナー



■1階(展示面積:天守約 240 m²・付櫓約 100 m²)

尼崎ガイドンスゾーン

- ・尼崎まちあるきガイドンス&ショップ
- ・尼崎いまむかし
- ・イベントや講演会など交流スペース



(2) 展示テーマと展示ストーリー

階	フロアテーマ	展示アイテム名称	展示内容	
1階	A. 尼崎まちあるき ガイドダンス&ショップ	A-① ごあいさつパネル	尼崎城天守再建の経緯などを紹介	
		A-② 案内コーナー	尼崎の魅力発信・紹介コーナー	
		A-③ ミュージアムショップ	尼崎城や尼崎の歴史文化関連書籍・グッズ、ご当地土産などを販売	
		A-④ パンフレットコーナー	周辺案内マップと文化観光案内パンフ(マップ等)のコーナー	
		A-⑤ 寄附者ネームプレート	寄附いただいた方のお名前を掲示するコーナー	
	B. 尼崎いまむかし (付櫓) ※イベント、講演会等のスペースにも活用	B-① あまナビ	自分の興味に沿ったスポットを見つけて周辺地域への周遊を計画	
		B-② 尼崎いまむかし	城内地区の変遷がわかる大地図(現代地図に古地図を重ね合わせたもの)を床面に配置	
		B-③ まんが尼崎歴史絵巻	尼崎の歴史の流れをまんが仕立てでわかりやすく紹介	
		B-④ 尼崎ハイカラ建物散策	尼崎の近代遺産、建物、工場地域の夜景などを紹介	
	2階	C. 近世尼崎 タイムスリップ体験 (付櫓)	C-① タイムスリップ尼崎城 VRシアター	尼崎城をCG(コンピュータグラフィックス)で再現し、尼崎城と城下町を体験
			C-② 尼崎城歴史年表	尼崎城の歴史やトピックスなどを中心に紹介する屏風風年表
			C-③ CGでよみがえる尼崎城	CG(コンピュータグラフィックス)で再現された尼崎城を解説・紹介するパネル

階	フロアテーマ	展示アイテム名称	展示内容
2階	D. 近世尼崎城下 体験コーナー	D-① 近世尼崎 城下体験コーナー	城下町パネルや尼崎城関連資料、 尼崎ゆかりの物語、年表などで近世 尼崎のくらしや文化を紹介するほ か、石垣積み体験や城下町すごろ く体験などの体験展示
		D-② 尼崎城天守 メイキングコーナー	グラフィックや映像で再建の様子を 紹介するとともに再現された鯨、瓦 等の部材も展示する尼崎城天守再 建の記録紹介
		D-③ 尼崎城建築体感コーナー	当時の内装・しつらえを再現し、歴 史的な趣を醸し出すコーナー
3階	E. 尼崎体験イベント スペース	E-① タタミ・ステージ	落語会や茶会、将棋対戦などにも 利用できるタタミ・ステージを整備
		E-② なりきり体験コーナー	近世尼崎城があった時代の衣裳等 を着てコスチュームプレイを楽しん だり、当時の生活様式を体験できた りするコーナー
4階	F. ひと咲き あまがさきギャラリー	F-① 荻原一青ワールド	尼崎出身の城郭画家・荻原一青の 作品やゆかりの品を展示
		F-② 尼崎ゆかりの人びと	尼崎ゆかりの有名な人とゆかりの地、 エピソードなどを紹介
		F-①② 企画展・特別展	定期・不定期の企画展や特別展を 開催
5階	G. わがまち尼崎展望室	G-① わがまち尼崎 展望スタンド	天守最上階から歴史文化ゾーンを 望みながら、風景などを解説するこ とにより今の尼崎の姿を紹介
		G-② VR体験	VR(仮想現実)技術等により、現代 のまち並みと昔のまち並みの比較 情報を提供

3 各階の展示構成(イメージ)

■1階(天守)

A. 尼崎まちあるきガイドンス&ショップ

～尼崎市内の周遊へといざなう

市内の周遊へと誘う文化観光案内と催事案内のコーナーを整備。さらに尼崎の歴史文化に関する書籍やグッズ、地元の土産や商品などを販売するショップを設ける。



■ 展示内容

A-①ごあいさつパネル

尼崎城天守再建の経緯などを紹介

A-②案内コーナー

尼崎の魅力発信・紹介コーナー

A-③ミュージアムショップ

尼崎城や尼崎の歴史文化関連書籍・グッズ、地元の土産や商品などを販売

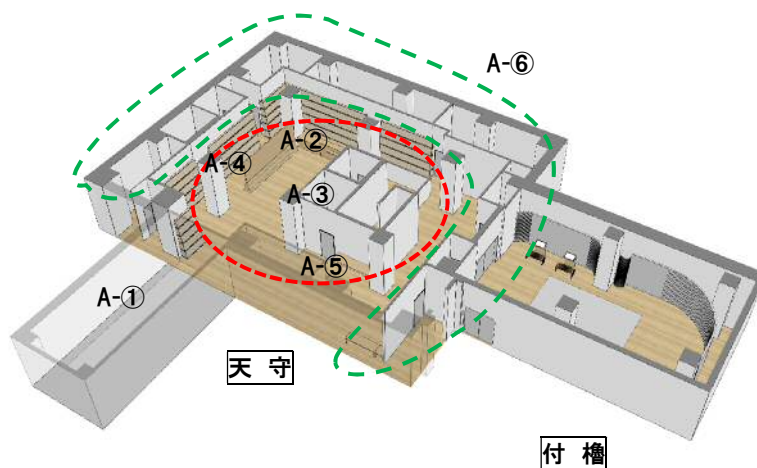
A-④

パンフレットコーナー

周辺案内マップと文化観光案内パンフのコーナー

A-⑤寄附者ネームプレート

寄附いただいた方のお名前を掲示するコーナー



(参考)

A-⑥

- ・トイレ
- ・事務室
- ・ボランティア控室
- ・倉庫・バックヤード 等

■ 1階(付櫓)

B.尼崎いまむかし

～多彩な尼崎のまちの表情との出会い

城内地区のいまむかしを重ねた地図により尼崎の歴史の変遷を紹介するとともに、尼崎の歴史(例: まんが尼崎歴史絵巻)や周辺の近代遺産、工場群の夜景などを紹介します。また、イベントや講演会にも使用できるように、出来る限り広いスペースを確保し、プロジェクター、スクリーン、音響設備を備える。



■ 展示内容

・B-①あまナビ

興味に沿ったスポットを見つけて
周辺地域への周遊を計画

・B-②尼崎いまむかし

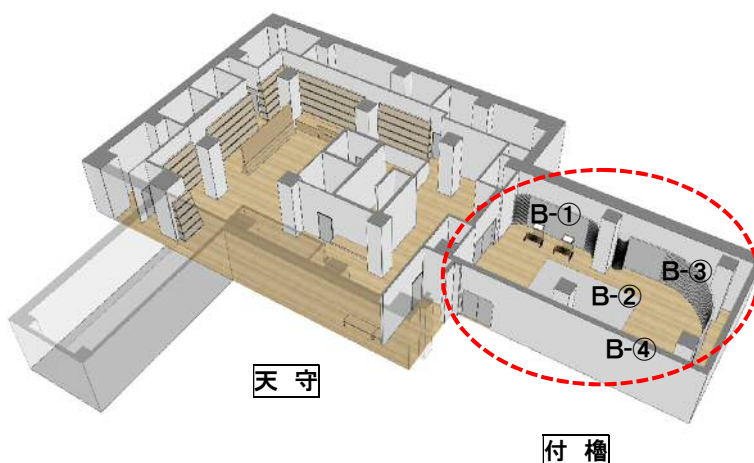
城内地区の変遷がわかる大地図
(現代地図に古地図を重ね合わせたもの)
を床面に配置

・B-③まんが尼崎歴史絵巻

尼崎の歴史の流れを漫画仕立てでわかりやすく紹介

・B-④尼崎ハイカラ建物散策

尼崎の近代遺産、建物、工場地域の夜景などを紹介



■2階(付櫓)

C.近世尼崎タイムスリップ体験

～往時の尼崎城と城下町に肉迫できる、目の前に広がるかつての尼崎城のすがた
タイムスリップ尼崎城VRシアター

往時の尼崎城をCG(コンピュータグラフィックス)で再現。尼崎城の概要を解説する視聴覚施設を整備。



■ 展示内容

C-①タイムスリップ尼崎城VRシアター

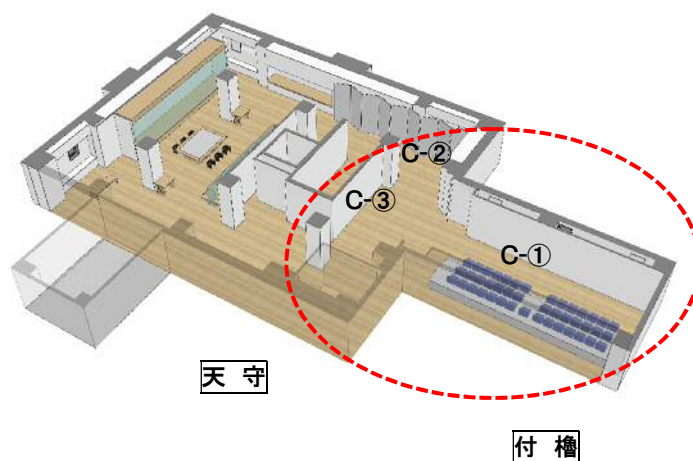
往時の尼崎城をCG(コンピュータグラフィックス)で再現し、尼崎城と城下町を体験

C-②尼崎城歴史年表

尼崎城の歴史やトピックスなどを中心に紹介する屏風風年表

C-③CGでよみがえる尼崎城

CG(コンピュータグラフィックス)で再現された尼崎城を解説・紹介するパネル



■2階(天守)

D.近世尼崎城下体験コーナー

～体験的に近世尼崎のくらしや文化にふれる

城下町パネルや尼崎城関連資料、尼崎ゆかりの物語、年表などで近世尼崎のくらしや文化にふれていただく。築城体験や城下町すごろく体験などにより遊びながら学ぶことができる。また尼崎城天守の再建のメイキングコーナーを設置。再現された瓦や鯪なども展示。



■展示内容

D-①近世尼崎城下体験コーナー

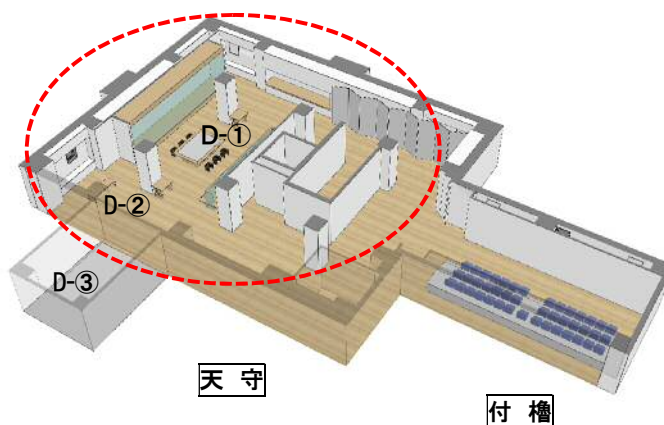
城下町パネルや尼崎城関連資料、尼崎ゆかりの物語、年表などで近世尼崎のくらしや文化を紹介するほか、石垣積み体験や城下町すごろく体験などの体験展示

D-②尼崎城天守メイキングコーナー

グラフィックや映像で再建の様子を紹介するとともに再現された鯪、瓦等の部材も展示する尼崎城天守再建の記録紹介

D-③尼崎城建築体感コーナー

当時の内装・しつらえを再現し、歴史的な趣を醸し出すコーナー



■3階(天守)

E.尼崎体験イベントスペース

～可変的なタタミ・ステージで様々なイベントを開催！

近世尼崎城があった時代の衣裳等を着てコスチュームプレイを楽しんでいただく。また、当時の生活様式、風習などを体験していただく。さらに落語会や茶会、将棋対戦などにも利用できるタタミ・ステージを整備。タタミ・ステージ等は分解すると、オープンスペースにも可変させることができ、特別な催しの開催も可能。



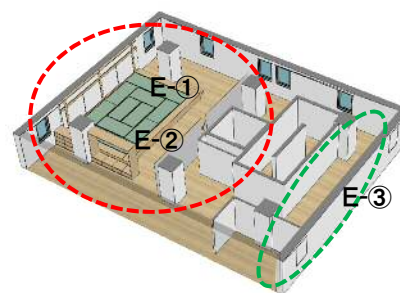
■展示内容

E-①タタミ・ステージ

落語会や茶会、将棋対戦などにも利用できるタタミ・ステージを整備

E-②なりきり体験コーナー

近世尼崎城があった時代の衣裳等を着てコスチュームプレイを楽しんだり、当時の生活様式を体験できたりするコーナー



天守

(参考)

E-③

- ・倉庫
- ・水洗い場
- ・トイレ等

■4階(天守)

F.ひと咲きあまがさきギャラリー

～尼崎ゆかりの人物の業績を通じて展開する話題性の高い展示

尼崎出身の城郭画家・荻原一青の作品やゆかりの品を展示し、尼崎出身の芸術家の存在に誇りを感じていただく。また尼崎ゆかりの有名人とゆかりの地、エピソードなどを紹介。また、企画展や特別展の開催にも対応。



■展示内容

F-①荻原一青ワールド

尼崎出身の城郭画家・荻原一青の作品やゆかりの品を展示

F-②尼崎ゆかりの人びと

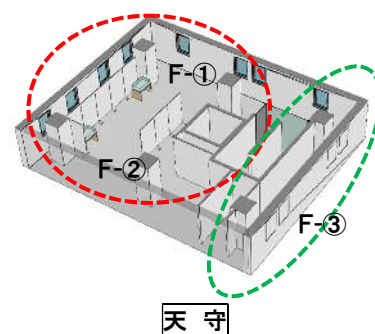
尼崎ゆかりの有名人とゆかりの地、エピソードなどを紹介

F-①②企画展・特別展

定期・不定期の企画展や特別展を開催

(参考)

F-③倉庫



■5階(天守)

G. わがまち尼崎展望室

～展望の楽しみに加えて、尼崎の歴史ある都市の発展を実感

来訪者と尼崎をつなげる演出空間。木材をふんだんに使った歴史を感じることができる天守最上階から歴史・文化ゾーンを望み、今の尼崎の姿を理解していただく。見ている風景の解説スタンドも用意。さらに現代のまち並みと昔のまち並みを見比べながら詳細情報を得ていただき、歴史の移り変わりを感じていただく。



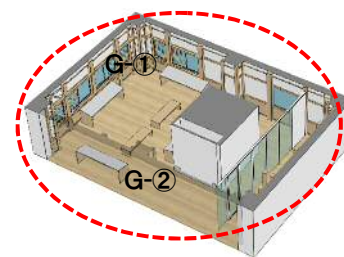
■展示内容

G-①わがまち尼崎展望スタンド

天守最上階から歴史文化ゾーンを望みながら、風景などを解説することにより今の尼崎の姿を紹介

G-②VR 体験

VR(仮想現実)技術等により、現代のまち並みと昔のまち並みの比較情報を提供



天守

第 4 章 事業活動計画

第4章 事業活動計画

1 基本的な考え方

基本理念に示すとおり、尼崎城天守は来訪者がわかりやすく、かつ楽しく歴史文化にふれ、学ぶことのできる場を提供し、来訪者がまちを周遊するきっかけ作りや周遊の支援となること、および交流につながる催しなどの場の提供や活動支援などを事業活動の軸とする。

2 事業計画

(1) 歴史にふれる

尼崎の歴史文化を多様な角度から取り上げ、体験やデジタルコンテンツなど楽しみながらの展示観覧や学習ができる手法を展開。さらに深く掘り下げて学習しよう、史跡などを見てみようという意識を持ってもらい、周遊のきっかけにつなげていく。また、外国人観光客にも対応できるよう多言語化を進める。市民をはじめ国内外の来訪者にとって、わかりやすい学びの場となるプログラムを企画・実施する。

(2) 市内を周遊

尼崎市域に点在する歴史文化情報を発信。また、ボランティアガイド等と連携し、来訪者にまちの歩き方を提案する。

(3) 地域の活性化

校外学習等の受け入れのほか、体験活動や出前講座を行うことで、尼崎の歴史文化を愛し、守り、未来に伝える活動や、その機運の醸成に貢献する。

講演事業や、文化情報発信等を通じて、市民をはじめ多くの人々に文化的体験の機会を提供するとともに、パンフレット、ポスター、インターネット等、多様な媒体を活用して文化情報を発信する。

地域の歴史文化および周遊にかかわるボランティアガイドの育成につながるよう、「参加・体験」を重視した活動を展開する。

第 5 章 管理運営計画

第5章 管理運営計画

1 基本的な考え方

尼崎城天守は市民・来訪者が尼崎の歴史文化に触れて学ぶことができる施設である。また、尼崎の魅力を発信する観光施設や、市民が気軽にいつでも集うことができる交流施設としての性格も有する。これらのことをふまえて、管理運営を進める際に重要なことを運営の基本的な考え方とする。

(1) 市民・来訪者に開かれた運営

市民・来訪者とのコミュニケーションを大切にし、多様な意見・要望などに応える施設運営を展開する。

(2) 市民・来訪者の満足度を高める運営

施設運営側が自ら実施する自己評価に加え、運営開始後一定期間経過した後に、市民・来訪者などによる外部評価を行う。

(3) 開かれた施設として市民・来訪者の立場に立った運営

誰もが気軽に利用できるよう市民・来訪者の立場に立った開館日時や入城料などを検討する。また、より多くの人々が施設を利用できるよう、広報の充実に努めるとともに、積極的な取組を展開する。さらに、多様な来訪者や利用形態を踏まえた、きめ細やかな対応やサービスを行うとともに、施設利用にあたってのユニバーサルデザインなどにも配慮する。

(4) 施設がになう使命・役割を持続的かつ着実に果たす運営

この施設の使命と役割に沿った活動を、長期にわたって持続的かつ着実に展開できるよう、可能な限り運営の合理化・効率化を図った運営とする。さらに、継続して、外部資金の確保に向けた仕組み作りを検討する。

2 運営形態

尼崎城天守の運営形態については、事務の効率化、専門性・ノウハウの発揮などの観点から決定していく必要がある。

本市の厳しい財政状況や歴史・文化のみならず観光的要素も考慮すると、他都市の事例を参考に運営形態は指定管理を基本として検討する。

なお、基本理念をより発揮するためには尼崎城天守だけではなく、隣接する駐車場や尼崎城址公園でのイベントなど、一体的な指定管理を検討する。

運営形態について、以下にメリット、デメリットを整理する。

	概要	メリット	デメリット
公設公営	公共が、事業の企画立案から資金調達、施設整備、維持管理、運営に至る一切を行う。公共が施設整備・所有を行い、運営や施設の維持管理等の一部業務のみ業務委託することも可能。	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果や専門知識の蓄積、職員の質の確保等、ノウハウの継承に必要な安定性、継続性が確保できる。 成果品、建物等の品質の確保が確実である。 	<ul style="list-style-type: none"> 委託範囲が限定的でかつ仕様発注がとられることが多く、コスト削減余地は少ない。 事業が硬直する可能性がある。
公設民営 (指定管理)	公の施設の維持管理・運営を市の指定する法人、その他の団体が代行して行う。なお、公の施設の設置・管理については、条例で定める必要があり、指定管理者の指定には議会の議決が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 公の施設の維持管理・運営について民間活力が導入できる。 民間のノウハウの発揮によりコスト削減が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者が交代する可能性があることから、業務内容によっては、職員の雇用条件の短期化等により、ノウハウや情報の蓄積がされにくくなる。

3 管理運営に関わる部門

組織は、先に述べた点に加え、効果的かつ効率的に力を発揮できるようスリム化に努める。事務局長以下、総務機能・企画推進機能の2つの機能が必要であり、事業の企画実施に当たっては、事業ごとに横断的なプロジェクトチームを編成するなど、機能的かつ弾力的な組織運営を行う。

また、今後検討される本市のDMOと連携し、地域の魅力を高めるべく、地域活性化の取り組みを充実させる。

(1) 総務機能

ア 管理

来訪者の安全管理、施設・設備の維持管理・ショップの売上管理など、施設活動全般の円滑な運営を行う。

イ 利用者サービス等

来訪者の受付やショップでの販売、施設の利用案内など、来訪者が快適に使用できるためのサービスを行う。

ウ 広報

ホームページやその他のWEB媒体、印刷媒体(地方紙等)を通して館外への情報発信を行う。行政内だけにとどまらず、旅行・交通・メディア関係の民間会社等とも連携し、集客の安定・向上に努める。

(2) 企画推進機能

ア 展示企画

基本展示の展開・更新や企画展・イベントなどの企画から開催までを担当する。

イ 地域連携

市民や学校関係者など主に地域での連携を密にし、展示説明や体験活動・イベント開催の企画・調整・実施などを担当する。

ウ 地域交流

歴史・文化などの活動に携わる市民・市民団体・ボランティアと連携をしながら、その活動計画のコーディネートから事業実施を担当する。

4 開館形態

多くの市民・来訪者が気軽に訪れることができるよう、開館日時や入城料を、他の文化施設の現況などを踏まえて検討する。

(1) 開館日時

ア 開館日・休館日

多くの人が利用するためには、できる限り休館日を少なくすることが考えられる。しかしながら、施設の適切な管理運営を行う必要があることから、効率的な運営に留意し、一定の休館日や資料整理日などの特別休館日を設ける。

イ 開館時間

開館日と同様、多くの人が利用しやすい開館時間について管理運営の効率性などを考慮して設定する。

そのうえで、季節や曜日、企画展やイベントの開催状況などに応じた開館時間の拡大、平日夜間の事業開催など、利用者の要望などを把握しながら、柔軟で弾力的な開館時間を検討する。開館日時については、周辺施設の現況を参考に、費用対効果も加味しながら設定する。

(2) 入城料

多くの人が気軽に、また繰り返し利用できるよう、1階については無料で利用できるよう配慮し、原則2階以上を有料とする。

5 収支計画の検討

本市の歴史的なシンボルとして、また観光施設の拠点となる施設として、質が高い活動を継続するためには、安定した財源の確保が必要不可欠となる。

そのためには、文化観光施設としての性質をふまえつつも、財源負担を軽減する努力は当然必要であり、立地条件、集客予測、事業展開などを踏まえ、できる限り効率的な運営に努め、少なくとも施設単独で単年度ベースの収支均衡を目指す必要がある。

なお、将来的には、大規模修繕や展示物等の更新が必要になり、その費用捻出が課題である。

(1) 主な歳入(約40,000千円)

(3)で後述する集客予測(入城者数約15万人)のうち、有料入城者数を約7割、また、平均入城料を最大料金500円などとして試算すると、入城料が約36,000千円、駐車場利用料などが約4,000千円と見込まれる。

ア 使用料

入城料／企画展等の入城料／駐車場利用料 など

イ サービス収入(運営形態による)

ショップ収入／イベント収入／ツアー企画 など ※委託等検討

(2) 主な歳出(少なくとも40,000千円)

他都市における類似施設の管理運営費や尼崎城天守の規模などから試算すると、尼崎城天守の受付・案内係を含めた人件費として約16,000千円、光熱水費などの物件費として約24,000千円程度が見込まれる。ただし、企画展や大規模イベントの実施など、尼崎城天守の活用方法によって運営体制が大きく変わる。

ア 管理運営費

人件費／施設費／清掃費／光熱水費／保険料／委託料／通信費／事務費 など

イ 資料収集費

資料購入費／委託費／図書購入費 など

ウ 調査研究費

謝金 など

エ 展示事業費

展示経費／展示保守／企画展等開催経費／広報宣伝費 など

オ 普及活動費

講師謝金／体験学習・講座の開催経費／印刷製本費 など

(3)集客予測

類似施設の施設規模、立地条件、入城者数などを分析し、尼崎城天守の集客予測を行った結果、入城者数は約 15 万人程度と推計される。

分析方法

① 類似施設（23 施設）を下記の事項について整理

- ・ 立地場所（最寄り駅からの距離）
- ・ 入館者数（平成 25 年～平成 27 年、3 カ年平均）
- ・ 文化財及び史跡等指定内容と有無
- ・ 天守のある調査対象施設立地県内施設
- ・ 調査対象施設規模（建築面積・延床面積・高さ・敷地面積）
- ・ 施設の構造（構造・階層・城郭構造・天守構造）
- ・ 施設の利用内容

② 集客予測に資する分析対象施設

調査対象施設の上位全てが国宝及び国指定史跡、重要文化財指定等の施設であるが、尼崎城天守は指定文化財等ではないことから、それらを分析対象から除外し、10 施設を抽出した。

③ 回帰分析の実施

抽出された 10 施設で回帰分析を行った結果、分析対象施設規模（延床面積）と入館者数に相関関係が見られ、尼崎城天守の施設規模から算定した入城者数を約 15 万人程度と推計した。

第6章 歴史文化ゾーン周辺におけるツーリズム計画の検討

第6章 歴史文化ゾーン周辺におけるツーリズム計画の検討

1 基本理念

「懐かしさに触れ、地域を学び、新たな活動が生まれるまち城内」

平成17年度に市民・事業者・行政の協働で設置された「城内地区まちづくり懇話会」において、城内地区のまちづくりの方向性が上記のように提言されており、これを受けて平成18年度に設置された尼崎市庁内検討会議で、歴史文化ゾーンの取組のうち、城内地区における歴史的建築物等を活用したまちづくりを、市民・地域住民・事業者・行政などが協働して取り組むための基本方向が平成20年度に城内地区まちづくり基本指針として定められた。

本計画における、歴史文化ゾーン周辺におけるツーリズム計画の検討は、上記、城内地区まちづくり基本指針、および平成28年に策定された都市再生整備計画／城内地区(都市再構築戦略事業)にもとづいて検討する。

2 整備の方向性・コンセプト

城内地区まちづくり基本指針において、城内地区まちづくりの基本方針として、次の3点があげられている。これらが歴史文化ゾーン周辺におけるツーリズム計画検討の整備の方向性となる。

- (1) 周辺地区と連携した魅力的なまちづくりを展開する。
- (2) 本物の魅力を活用し歴史文化の拠点を形成する。
- (3) 人材の育成と市民活動の活性化をはかる

また、都市再生整備計画／城内地区(都市再構築戦略事業)において、城内地区の整備目標は以下のように定められており、これらが歴史文化ゾーン周辺におけるツーリズム計画検討の整備コンセプトとなる。

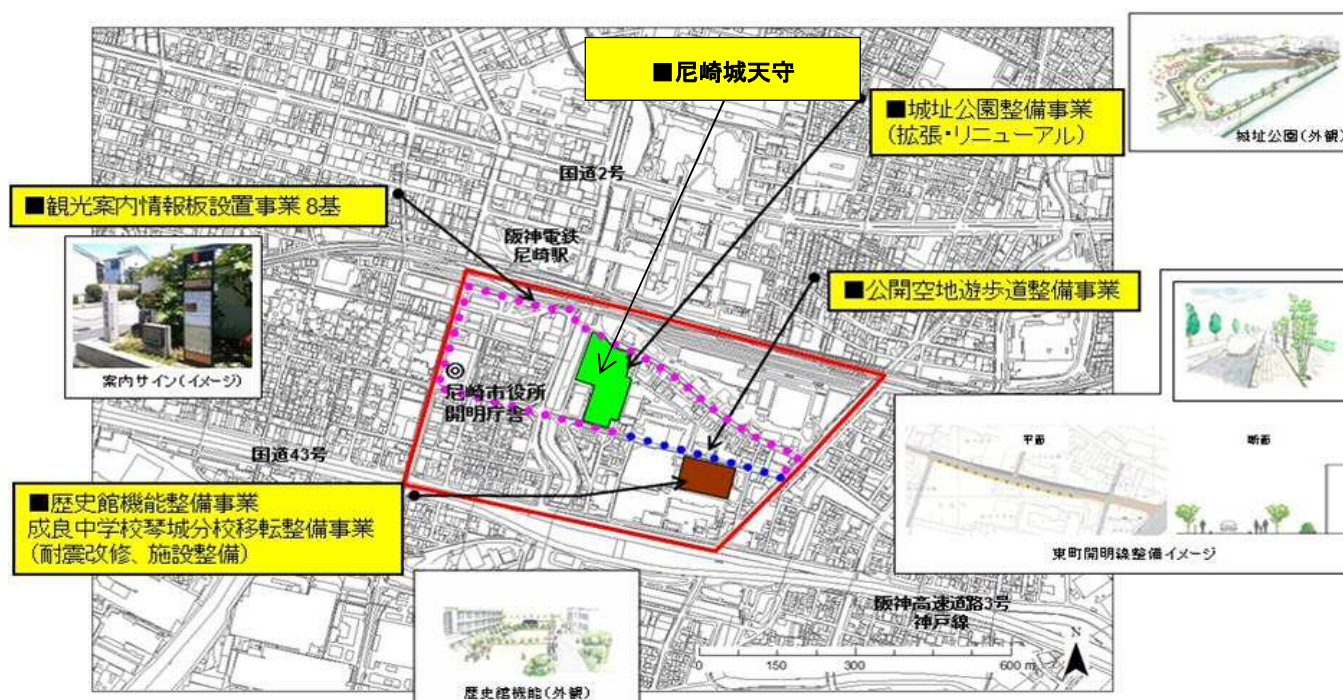
- (1) 本市の歴史・文化資源を活かすことで都市の魅力向上と交流人口の増加を目指す。
- (2) 都心の低未利用地を活用することで、都市拠点としての機能強化とまちなかの再生を目指す。
- (3) 歴史文化という新たな都市イメージを付加することで、市民のまちに対する誇りや愛着の醸成を目指す。

3 整備の機能

歴史文化ゾーン周辺におけるツーリズム計画の検討にあたり、新たに地域で整備される機能を記す。

- (1) 尼崎城の展示整備事業による文化観光ガイドランスの機能、歴史文化の展示機能
- (2) 観光案内情報板設置事業による現地情報提供機能
- (3) 公開空地遊歩道整備事業による遊歩道機能
- (4) 城址公園整備事業による公園機能
- (5) 歴史館機能整備事業による文化財保護活用機能、歴史資料等収集保管、調査研究、展示公開、普及啓発機能等

・城内地区歴史文化ゾーン整備計画図



4 寺町や商店街など周辺エリアとの連携方針の検討

歴史文化ゾーン周辺におけるツーリズム計画は、地域で整備される機能を活用し、周辺エリアとの連携をはかりつつ、近世および近代にわたる歴史文化や、現在の尼崎の魅力を味わえるなど尼崎の多彩な魅力をつたえるツアーやルートを開発することを目的とする。テーマや所要時間などにより複数のルート設定が想定されるが、以下のルートを事例として検討する。またガイドツアーはボランティアの協力による運営を検討する。

(1) 歴史文化ゾーンルート

尼崎城天守を起点に、寺町を巡るルート。歴史的景観から近世尼崎の魅力を感じる。

(ルート例) 尼崎城天守→尼崎市立文化財収蔵庫→寺町→尼信会館

(2) 阪神電鉄尼崎駅周辺ルート

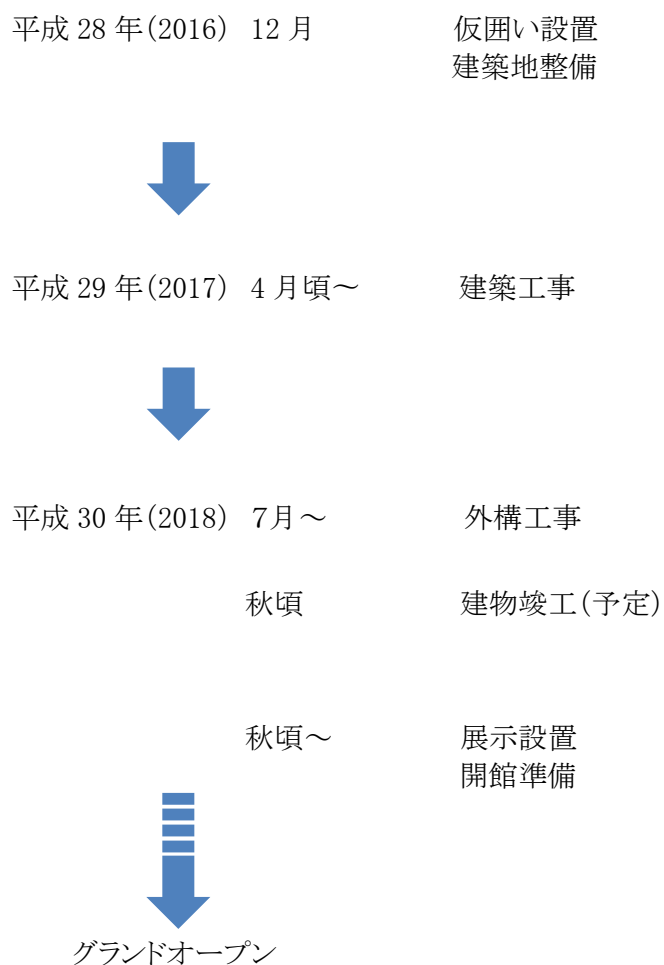
尼崎城天守を起点に、歴史文化ゾーンと阪神電鉄尼崎駅周辺のエリアを巡るルート。歴史的景観の魅力に加え、商業ゾーン等の賑わいや楽しみを感じる。

(ルート例) 尼崎城天守→尼崎市立文化財収蔵庫→寺町→尼崎中央・三和商店街

いずれもアクセスの入口としては阪神電鉄尼崎駅であり、徒歩での周遊が中心となることを踏まえ、飲食施設との連携や、開明庁舎の活用方法などの検討も合わせて行っていく必要がある。

第7章 事業スケジュール

第7章 事業スケジュール



※開館時期は未定。建築工事状況により調整が必要。

第8章 関連調査

第8章 関連調査

1 同種施設の調査(天守の活用・展示)

尼崎城天守展示計画策定にあたり、同種施設を調査し、これらを参考に検討を行う。

	施設	特記
1	清洲城(愛知県清須市)	
2	大垣城(岐阜県大垣市)	
3	岸和田城(大阪府岸和田市)	
4	和歌山城(和歌山県和歌山市)	
5	長浜城(滋賀県長浜市)	※平成28年(2016)展示リニューアル
6	福知山城(京都府福知山市)	
7	小田原城(神奈川県小田原市)	※平成28年(2016)展示リニューアル

(1) 清洲城

所在地	愛知県清須市	開館年	平成元年(1989)
施設規模	建築面積 328.0 m ² 延床面積 773.0 m ² 駐車場:普通車 113 台、バス 9 台(いずれも無料)		
施設概要	<p>■開館時間 清洲城天主閣 9:00am～4:30pm、芸能文化館 9:00 am～5:00 pm、多目的広場 日の出～9:00pm(11月～3月の日の出から日没まで)</p> <p>■入館料 大人300円(団体250円)、小人(小中学生)150円(団体100円) ※幼児無料 ※団体は30名以上 ※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳又は療育手帳の所持者は無料、その介助者は1名まで半額</p>		
来館者数	平成25年度 80,011名／平成26年度 84,897名／平成27年度 87,971名		
施設構成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3層4階、天守閣で清洲城の歴史関連展示 ■ ふるさとのやかた:ショップ、工房 ■ 芸能文化館 ■ 多目的広場 		
施設内容	<p>■ 天守閣</p> <p>①歴史関連展示 戦国の都「清須」の歩みや信長公をはじめとする武将たちの偉業などを紹介。</p> <p>1階 [プロローグ] 古代から平成 21 年までの清洲の歴史を紹介。</p> <p>2階 [戦国の都・清洲] 清須城を中心に清須城下の都市機能の全貌を知る「清須城と城下町」がテーマ。戦国時代の清須城下や信長公^{きんが}麾下の武将たちの暮らしなどを紹介。</p> <p>3階 [覇者たちのルーツ・清洲] 信長を中心に、秀吉・家康をはじめ信長公^{きんが}麾下の武将たちと清須との深い関わりあいを紹介し、清須が育んだ先人達の偉業にふれる。「清須会議」紹介コーナーもあり。</p> <p>4階 [天下一吉例] 吉例の地・清須の天主に立ち、浩然の気を養う」をコンセプトに、清須の眺望を楽しむ。</p> <p>②体験 甲冑・打ち掛け試着体験、武将・姫君画像集、火縄銃体験</p> <p>■ ふるさとのやかた</p> <p>①ショップ</p> <p>②清洲甲冑工房: ボランティアグループによるアルミの甲冑制作</p> <p>■ その他 ・復元石垣 ・信長塀 ・石庭 ・枯山水庭園 ・水琴窟</p>	    	

(2)大垣城

所在地	岐阜県大垣市	開館年	平成 13 年(2001)
施設規模	建築面積 220.6 m ² 延床面積 580.3 m ² 専用駐車場なし ※市営丸の内駐車場(有料)等の利用を案内		
施設概要	<p>■開館時間 9:00am～5:00pm</p> <p>■入館料 大人100円(団体50円) 郷土館と共通券 一般150円(団体75円) 郷土館、守屋多々志美術館、奥の細道むすびの地記念館と共通券 一般600円(団体300円)</p> <p>※高校生以下無料 ※団体は20名以上 ※障がい者手帳、療育手帳の所持者およびその介助者および大垣市内に在住する65歳以上の方は無料</p>		
来館者数	平成 25 年度 67,611 名／平成 26 年度 72,710 名／平成 27 年度 81,904 名		
施設構成	<p>■ 4層4階、天守内で展示</p> <p>■ 1・2階を歴史文化関連展示、3・4階を休憩および展望室として利用</p>	 	
施設内容	<p>■天守</p> <p>①歴史文化関連展示</p> <p>1階 関ヶ原合戦と大垣城に関する展示。 関ヶ原合戦に関わる連署、杭瀬川の戦いジオラマなど。</p> <p>2階 戦国時代の武士の生活が分かる日常用品など、武士と庶民の文化や生活に関する展示。ジオラマ、地図資料など。</p> <p>②休憩および展望</p> <p>3階 オープンスペース(休息室)。大垣城の改修の様子をパネル展示。</p> <p>4階 展望室。 東西南北をパネルで表示して、各方面にある史跡などを解説。</p> <p>③体験 (1階) 槍、火縄銃、弓など戦国時代に使われていた武器体験。</p> <p>■その他 ・化石が含まれた石垣 ・『おあむ物語』にちなんだ「おあむの松」 など</p>		



(3) 岸和田城(岸和田市立郷土資料館)

所在地	大阪府岸和田市	開館年	平成 19 年(2007)
施設概要	<p>■開館時間 10:00am～5:00pm、芸能文化館 9:00 am～5:00 pm、お城まつり期間中(4月1日～15日)は8:30まで</p> <p>■入館料 大人300円(団体3割引) ※中学生以下無料 ※団体は25名以上 ※岸和田城・岸和田だんじり会館・きしわだ自然資料館の3館共通700円 ※身体障害者手帳、精神障害者保護福祉手帳、療育手帳の所持者およびその介助者は無料</p>		
来館者数	平成 25 年度 37,121 名／平成 26 年度 43,397 名／平成 27 年度 41,345 名		
施設構成	<p>■3重3階、天守内で展示</p> <p>■1、2階を展示空間、3階を展望台として利用</p>		
施設内容	<p>■天守</p> <p>1階:常設展示 岸和田城に伝わる岡部家伝来の品々や岸和田藩関係資料を展示。</p> <p>2階:企画展示 岸和田市域だけでなく、泉州地域全般にかかわる歴史・美術・文化をテーマとした展覧会や、甲冑・武具など大名文化をテーマとした展覧会も開催。</p> <p>3階:展望台スペース 岸和田城ジオラマを設置。</p> <p>■ その他：・八陣の庭 ・棟飾櫓屋外展示 ・岸和田藩薬園跡など ・岸和田城ウェディングやギャラリー等各種イベントに活用</p>		 

(4)和歌山城(わかやま歴史館)

所在地	和歌山県和歌山市	開館年	平成27年(2015)
施設規模	和歌山城天守閣:建築面積1,359.0㎡ 延床面積1,837.0㎡ わかやま歴史館:建築面積609.88㎡ 延床面積2,274.05㎡ 展示面積362.88㎡ 駐車場:和歌山公園駐車場58台、岡公園駐車場34台、市営中央駐車場564台、和歌山県立美術館駐車場90台、その他民間駐車場を案内(いずれも有料)		
施設概要	<p>■開館時間 2階:歴史展示室 9:00am~17:30pm 1階:和歌山市観光土産センター 9:00am~17:00pm 1階:和歌山市観光案内所 8:30am~17:15pm</p> <p>■入場料 大人(高校生含む)100円 ※小・中学生無料 ※和歌山城天守閣との共通入場券もあり ※身体障害者手帳方・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳の所持者とそれぞれの介助者1名、和歌山市の発行する老人優待利用券の所持者、母子世帯又は生活保護世帯であることの証明書の所持者は無料</p>		
来館者数	平成25年度 189,497名/平成26年度 202,889名/平成27年度 233,102名 ※上記は和歌山城天守閣入城者数		
施設構成	<p>■和歌山城内の一角に立地</p> <p>■1階を観光関連施設、2階を歴史展示施設として利用</p>		
施設内容	<p>■2階 歴史展示施設</p> <p>シアタールーム VR映像 [よみがえる和歌山城] VR(ヴァーチャル・リアリティ)映像により江戸後期の様子を再現。また映像を手動操作することにより、城内を歩き回る感覚でめぐることができる。</p> <p>和歌山城の歴史文化 [紀州徳川家伝来の金印] 江戸後期に紀州徳川家で使用された黄金色の金属製の印章が和歌山城の歴史巡りの序章を飾る。</p> <p>和歌山城の歴史文化 [わかやまの歴史絵巻] 和歌山城が築かれる前の雑賀の時代、紀州平定と和歌山築城、紀州藩の成立などを絵図や古文書、出土遺物等から読み解き紹介。</p> <p>和歌山城の歴史文化 [養翠園茶室 実際庵の再現] 十代藩主徳川治宝が造園した大名庭園「養翠園」を望む養翠亭の一角にある茶室を忠実に再現。</p> <p>わかやま人物探訪 [和歌山市の偉人・先人] 近・現代史上の市の偉人・先人の中から各分野を代表する5名『陸奥宗光(政治家)』、『南方熊楠(学者)』、『川端龍子(画家)』、『松下幸之助(経済人)』、『有吉佐和子(小説家)』とその功績を紹介。</p> <p>■1階 観光関連施設 お土産品のほかカフェコーナーも設置。観光案内所では甲冑試着体験もできる。</p>		    

(5)長浜城(長浜城歴史博物館)

所在地	滋賀県長浜市	開館年	昭和 58 年(1983)開館 平成 28 年(2016)リニューアル
施設規模	建築面積 662.1 m ² 延床面積 1,836.0 m ² 駐車場:豊公園大駐車場を案内(無料 141 台(障害者用 3 台))		
施設概要	<p>■開館時間 9:00am～17:00pm</p> <p>■入場料 大人(高校生以上)400円(団体320円) 小・中学生200円(団体160円) ※団体は20名以上 ※身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持者とその介助者は無料 ※長浜城歴史博物館友の会会員は会員期間内は何度でも無料</p>		
来館者数	平成 25 年度 143,379 名／平成 26 年度 192,030 名／平成 27 年度 116,017 名		
施設構成	3層5階・地下1階、天守閣内で展示 展示室は2～3階。		
施設内容	<p>地下1階 研修室。</p> <p>1階 受付、ミュージアムショップ、事務室。</p> <p>2階:常設展示[湖北・長浜のあゆみ] 湖北・長浜の歴史と文化について紹介。展示更新あり。</p> <p>3階:常設展示[秀吉と長浜] 秀吉が一国一城の主となった最初の拠点であり、彼の城下町経営の基本パターンを醸成したところという観点で展示を展開。展示更新あり。</p> <p>4階:呈茶室 春(4～5月)、秋(10～11月)の日曜・祝日に開庵。 営利目的以外の講演会、講習会および研究会などの場として、有料で利用可能。</p> <p>5階:望楼(回縁付)[戦国パノラマ展望台]</p> <p>■事前申し込みによりボランティア「長浜城一門衆」が館内を案内説明</p>		 

(6) 福知山城(郷土資料館)

所在地	京都府福知山市	開館年	昭和 61 年(1986)
施設規模	建築面積 468.6 m ² 延床面積 1,063.1 m ² 駐車場:普通車 60 台、バス 1 台(いずれも無料)		
施設概要	■開館時間 9:00am~17:00pm ■入場料 大人320円(団体320円) こども(小・中学生)100円 ※障害者手帳の所持者とその介助者1名は半額 ※福知山市佐藤太清記念美術館の入場料とセット(割引) おとな 470 円、こども 100 円		
来館者数	平成25年度 35,440名／平成26年度 35,342名／平成27年度 40,762名		
施設構成	3重4階、地下1階 天守閣内で展示		
施設内容	展示階 福知山城に関する資料や福知山地方の歴史・文化財の紹介。 4階:望楼		



(7)小田原城

所在地	静岡県小田原市	開館年	昭和 35(1960)開館 平成 28 年(2016) リニューアル
施設規模	建築面積 742.7 m ² 延床面積 1,822.7 m ² 駐車場:一般車は周辺の有料駐車場、観光バスは城址公園南入口の専用駐車場(有料)を案内。		
施設概要	<p>■開館時間 9:00am~17:00pm</p> <p>■入場料 天守閣単独券一般500円(団体400円)／小・中学生200円(団体160円) 常磐木門との2館共通券 一般600円(団体480円)／小・中学生220円(団体170円) 天守閣、常磐木門小田原城歴史見聞館との3館共通券 一般700円(団体560円)／小・中学生520円(団体180円)</p> <p>※障害者手帳、療育手帳持参・提示で所持者とその介助者1名は無料 ※小田原市が発行する「福寿カード」持参・提示で所持者とその介助者1名は無料 ※インターネット特別割引券あり</p>		
来館者数	平成25年度 430,475名/平成26年度 502,330名/平成27年度 148,325名		
施設構成	3重4階の天守櫓、付櫓、渡櫓の複合式天守閣		
施設内容	<p>① 歴史展示</p> <p>1階:常設展示〔江戸時代の小田原城〕 江戸の西を守る城だった小田原城の役割や歴史の城主たちの足跡を紹介。</p> <p>2階:常設展示〔戦国時代の小田原城〕 小田原城を本拠地とした戦国大名、小田原北条氏の足跡を紹介。</p> <p>3階:企画展示 小田原ゆかりの美術工芸品や小田原城での発掘調査の成果を紹介。</p> <p>4階:企画展示 明治時代から現代に至る、小田原城の歴史を紹介。 ※展示更新あり</p> <p>5階:常設展示〔小田原城天守再現〕 江戸時代の天守にまつられていたとされる摩利支天像の安置空間を再現。展望デッキ。</p> <p>② 体験 甲冑姿になる体験、虎朱印押印体験など</p> <p>③ ミュージアムショップ(1階)</p> <p>④ その他:Wi-Fi環境の整備、多目的トイレの設置</p>	     	

2 周辺施設の調査

尼崎城天守閣展示計画策定にあたり、周辺施設を調査し、これらを視野に入れつつ展示計画の検討を行う。

1	尼崎市立文化財収蔵庫 (旧尼崎市立高等女学校校舎・旧尼崎市立城内中学校校舎)
2	尼崎信用金庫記念館(旧尼崎信用組合本店)
3	A-Lab(えーらぼ)
4	尼崎市立地域研究史料館
5	尼崎市立田能資料館(国指定 田能遺跡)

(1) 尼崎市立文化財収蔵庫(旧尼崎市立高等女学校校舎・旧尼崎市立城内中学校校舎)

所在地	尼崎市南城内 10 番地の 2	開館年	平成 21 年(2009)
施設規模	敷地面積 8,663 m ² 、延床面積 本館 5,500 m ² ／産業・民俗資料室 255 m ² 駐車場 普通車 20 台、バス 4 台		
施設構成	<p>■本館 常設展示【展示室1・2、展示ホール、玄関ホール】、企画展示室、講座室、ガイダンス室、学習体験室、市民活動室、埋蔵文化財整理作業室ほか</p> <p>■産業・民俗資料室 常設展示</p>		
施設内容	<p>■市指定文化財の指定、国・県・市指定文化財や登録文化財の保護と活用、埋蔵文化財発掘調査や出土資料の整理・保存・活用をはじめとする文化財保護行政を行うとともに、考古・歴史・民俗・産業・美術工芸資料等を収集保存、調査研究、展示公開し、歴史講座・見学会・体験学習会・出前講座・出張授業等の普及啓発事業を行う博物館施設。</p> <p>■常設展示</p> <p>展示室1・2「掘り出された尼崎の歴史」をテーマに、市内の遺跡から出土した資料を中心に原始古代から戦国時代までを通史展示。</p> <p>展示ホール「尼崎城と城下町」をテーマに、尼崎城跡及び城下町から出土した資料、尼崎城下町模型と本丸模型等を展示。</p> <p>産業・民俗資料室「ちょっと昔のくらしの道具」をテーマに市内の旧家等から寄贈された昭和 40 年ごろまでの生活用具等民俗資料の展示、「工都尼崎のあゆみ」をテーマに産業都市尼崎を支えた尼崎第二発電所で稼働していたタービンローターをはじめ、リング精紡機などの産業資料を展示。</p> <p>■企画展示</p> <p>尼崎市がこれまで収集してきた考古・歴史・民俗・産業・美術工芸資料等を用いて、テーマと期間を設定して、多様な切り口で尼崎の歴史を紹介する展示会を開催。</p> <p>■普及啓発</p> <p>尼崎の歴史や文化財にかかわる歴史講座や講演会、見学会、尼崎ゆかりの農作物「尼いも」や「綿」「藍」の栽培と収穫物を利用しての「ワタ繰り」「糸紡ぎ」「機織り」「藍染め」などの体験学習会や出土資料を活用した出張授業など市民ボランティアとの協働事業等を開催。</p> <p>■出土資料の整理・保存・活用</p> <p>市内の遺跡から発掘調査で出土した資料の整理作業等を市民ボランティアとの協働で行い、調査成果を報告書として刊行するとともに、歴史講座や企画展・出張授業等で身近な地域の歴史として市民に紹介。</p>		



(2) 尼崎信用金庫 尼信会館

所在地	尼崎市東桜木町3番地	開館年	平成13年(2001)
施設規模	敷地面積 964.64 m ² 、延床面積 1649.72 m ² 駐車場 普通車 16 台(本店別館駐車場)		
施設構成	受付、ロビー、常設展示室(城下町尼崎展示、コインミュージアム)、特別展示室、ホール		
施設内容	<p>尼崎城の白壁をイメージした4層(内部5階)建て。 赤煉瓦の建物は、尼信記念館(大正10年、創業時の尼信本店を保存した建物)。 国の重要文化財や尼崎市指定文化財など歴史的に貴重な資料を数多く常設展示するとともに、世界170カ国の金貨銀貨をコインミュージアムにおいて常設展示。</p> <p>■1階:ロビー 休憩用ソファ、尼崎の歴史文化、美術関連等の書棚。</p> <p>■2階:城下町尼崎展示(常設)</p> <p>[城下町尼崎] 港湾都市として栄えた尼崎や尼崎城の築城、尼崎藩の産業、尼崎県から兵庫県への編入など尼崎の歴史を概観。中央に尼崎城復元模型を展示。</p> <p>[西の城塞、尼崎城] 尼崎城築城当時の世相、および尼崎城の構造やしつらい等を、築城当時の絵図、図面等とともに詳細に解説。</p> <p>[武士の精神と武具] 尼崎藩主桜井松平家ゆかりの重要文化財「太刀 銘守家」を初めとして、具足、道具槍などの武具を展示。</p> <p>[朝鮮通信使の来訪] 釜山から江戸へ向かう朝鮮通信使を尼崎藩松平家が接待と送迎した時の船図とともに海の要衝であった尼崎を解説。</p> <p>[海の守りと砲台] 幕末、西欧の国々の来航に備え、海岸警備を命じられた尼崎藩の砲台築造を絵図とともに解説。</p> <p>[幕末から明治の貨幣経済] 商品経済の発展に伴い、諸藩が発行した多種多様な藩札などの紙幣を実物とともに解説。</p> <p>■コインミュージアム 日本はじめ世界170か国2,500個余の貨幣を展示しエピソードと共に紹介。</p> <p>■1階・3階展示室 地域の芸術、文化の発信基地として、定期的に絵画の書・彫刻・工芸などの芸術作品の展示スペースとして特別展示。</p>		



(3)A-Lab(えーらぼ)

所在地	尼崎市西長洲町2丁目33-1	開館年	平成27年(2015)
施設規模	延床面積 489.1 m ² 駐車場 障害者用のみ		
施設構成	<p>[展覧会] 主に若手のアーティストを対象とした展覧会を年5回程度開催。作品の発表を通じて「若い人の夢とチャレンジを応援する」という本市のシティープロモーションキーワードを発信している。</p> <p>[ワークショップ][アーティストトーク] 主に子どもを対象としたワークショップを開催している。アーティストやアート関係者によるアートイベントやワークショップを通じて、子どもたちをはじめとして、市民が身近に芸術にふれる機会を作り、「アーティスト・市民・アートラボがともに育っていく場」をコンセプトとしている。</p>		
施設内容	旧小田公民館城北分館をアート発信基地としてリノベーション。若手アーティストの発表・創作の場として活用することで、アートを通じたまちづくりを展開する。		



(4)尼崎市立地域研究史料館

所在地	尼崎市昭和通 2 丁目 7-16	開館年	昭和 50 年(1975)
施設規模	尼崎市総合文化センター7階の一部、延床面積 308.34 m ² (尼崎市総合文化センター本館の敷地面積 16,743.00 m ² 、延床面積 10,505.60 m ²) 固有の駐車場なし(尼崎市総合文化センターの有料駐車場使用可)		
施設構成	開架閲覧室、文書庫、書庫、会議室、倉庫、資料整理室ほか		
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域文書館、地域史文献センター、地域史研究室の3つの性格をもち、古文書・近現代文書、歴史的公文書、地図や写真、ビラ料類を収集・保存し閲覧公開する。 ■ 全国各地の地域史誌、歴史関係の紀要・雑誌なども収集・公開。 ■ レファレンスサービスを行う。 ■ 刊行物などを通じて市民の調査・研究の成果を公表・紹介する。 ■ 講座「『尼崎市史』を読む会」や、「尼崎の近世古文書を楽しむ会」などの自主グループ事業などの講座やイベントを実施。 ■ 史料整理や「『尼崎市史』を読む会」の運営などは市民ボランティアが協力。 ■ デジタルアーカイブや Web 尼崎地域史事典 apedia、Web 版尼崎の歴史など、インターネットを通じての情報提供・発信を実施。 		



(5)尼崎市立田能資料館

所在地	尼崎市田能 6-5-1	開館年	昭和 45 年(1970)
施設規模	敷地面積 5219.73 m ² 、延床面積 371.39 m ² 駐車場 普通車 25 台、バス 3 台(事前予約が必要)		
施設構成	常設展示室、展示・学習室、図書室ほか 		
施設内容	<p>国史跡田能遺跡の上に立地しており、田能遺跡から出土した遺物を収蔵・展示している。平成 23 年(2011)にリニューアルオープン。</p> <p>■収蔵・展示棟</p> <p>[常設展示室] 田能遺跡から発見された遺物を中心に、パネルや模型も用いて、弥生時代のくらしを紹介する。音声ガイドも設置。</p> <p>[展示・学習室] 特別展や企画展、古代のくらし体験学習会などに使用する。</p> <p>■屋外施設 田能遺跡の重要な遺構が見つかった部分を一部地下に保存し、史跡公園として整備・公開している。また、猪名川の左岸に田能遺跡が立地していたことから、猪名川の流れを意識して池を配置している。</p> <p>園内には、円形平地住居や方形竪穴住居、高床倉庫という弥生時代の建物3棟を復元しています。復元住居は内部へ入り、住居の構造や大きさ、明るさ、温度などを体感できる。</p> <p>方形周溝墓や10基の墓が発見された場所の真上を、それぞれの形の花壇として標示し、横に解説板を配置している。</p> <p>平成19年2月には、「日本の歴史公園100選」に選定される。</p>  		

平成 29 年 8 月

尼崎市 ひと咲きまち咲き担当局

まち咲き施策推進部城内まちづくり推進課

電話 06-6489-6147

メール ama-shiro@city.amagasaki.hyogo.jp